

認知的効用と直感的意思決定

高岡 正法[†]

要旨

本研究では、神経活動に関するデータを基にした個人の認知作用に関する理論を構築し、認知作用の一部として認知的効用と呼ばれる概念を定義する。さらに、個人の認知作用に関する性質として、認知作用の状態依存性と不完全想起と呼ばれる2つの性質を明示化することで、効用のパラメータの不変性や情報の完全利用として従来の経済学理論の公準として想定されていた合理的個人の性質に関して一般化をする。この個人の認知作用に関する性質の一般化を、意思決定行動の目的関数となる認知的効用に反映させることで、ヒューリスティクスの影響を受けたり、ヒューマン・エラーを起こしたりするような、個人の直感的意思決定行動に関する説明の基礎となる理論体系を構築する。

[†] 大阪大学経済学研究科博士後期課程2年. E-mail:kge007tm@mail2.econ.osaka-u.ac.jp